

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
推進校実施報告書

- 1 学校名：熊本県熊本市立長嶺小学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年12月03日（月）10：45-12：15
- 3 対象：児童約300名（1、2年生）
- 4 派遣オリンピック：川上 優子 さん  
（女子陸上競技10,000m アトランタ大会7位、シドニー大会10位）

5 授業内容：講演、実技

2018（平成30）年12月3日（月）に、熊本県熊本市立長嶺小学校にて、女子陸上競技10,000mの川上優子さんの講演と実技体験が行われました。

長嶺小学校では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のマスコットの「ミライトワ」と「ソメイティ」の人形やポスターが校内に掲示されており、オリンピック・パラリンピック教育の推進校として積極的に活動が行われていました。また、昨年度のマスコット投票の際には、オリンピック・パラリンピックに関する授業をマスコット投票に向けて行い、組織委員会の「マスコット通信」に取り上げられました。

「失敗は成功の秘訣のもと」というテーマで行われた講演では、まず始めに川上さんの競技経験を振り返ったDVD映像の視聴が行われました。川上さんが日本選手権で優勝したときの映像が流れたときには、児童から「おー」という感嘆の声があがっていました。DVD映像の視聴の後は、川上さんの行ってきた10,000mの競技についての紹介が行われました。川上さんは、小学校の低学年の児童ということもあり、時折児童に質問をしたりしながら講演を進めていました。続いて、講演の中心的な内容である、川上さんの経験を元にした失敗したときこそ成功のチャンスである、というお話がありました。川上さんは、失敗を成功に変えるには、失敗を捉え直すことが大切である、と考えているそうです。例えば、緊張が原因で失敗をしてしまったときは、緊張を悪いものと捉えるのではなく、緊張してもよいと考えることで、心が軽くなってよいパフォーマンスができるようになったそうです。そして、何よりも失敗を恐れずに挑戦をすることを大切にしている、ということでした。このような考えは、元々体が小さくて世界と戦うことが難しいと言われる中でオリンピックの出場までたどり着いた川上さんご自身の経験から得られた考えで、講演を聞いていた児童たちも真剣な表情で川上さんのお話を聞いていました。

質疑応答では、児童から川上さんの好きな食べ物や、オリンピックはそもそも何のためにやるのかといった質問がでました。川上さんが、オリンピックは平和の祭典である、という説明をされると、児童からは「そうなんだ」という声があがっていました。また、時間の都合で全ての児童をあてることができませんでしたが、児童がとても積極的に手をあげている様子が印象的でした。

10分の休憩後、実技体験を行いました。その場で片足ジャンプなどのストレッチを行った後に、短距離走を行いました。各グループの前に4つのマーカーが置かれ、そこで細かいステップを踏んだあとに15mほど先のマーカーを回って戻ってくるというコースで行いました。川上さんにアピールをしながら一生懸命走る児童や、

最初のステップがうまくいかずにとまどう児童も見られました。川上さんは、ステップを意識しながらもうまくいかない児童に対して、積極的に声をかけていました。また、実技体験の終了時には、少し練習するだけでもスピードはあがるから、もっと速く走りたいと思ったら日々の努力が大切である、と川上さんはまとめの言葉を児童に送られました。

## 6 授業の様子



【 演題 】



【 DVDの視聴 】



【 講演 】



【 質疑応答 】



【 ストレッチ 】



【 児童に積極的に声をかける川上さん 】



【 児童代表挨拶 】



【 花束贈呈 】